

講義名	経済情報処理			授業形態	
担当教員	森澤 龍也	開講期・曜日・時間	後期 木曜日 3時限		
		単位数	2	履修開始年次	2年生

### 主題と概要

現実の経済について論じるときには、単なる思いつきや現実の動きを無視した議論を避け、証拠（データや資料）に基づいて議論することが重要である。また、効果的な情報伝達を行うことで、伝えたい内容を相手に的確に伝えることが必要となる。この講義では、経済情報処理 の内容を発展させ、PC教室での実習を通じて、経済分析および実務に必要な情報処理能力の修得を目標とする。

### 到達目標

- (1) 表計算ソフトの応用的な操作方法（エクセル）を身につけることができるようになる。
- (2) 統計分析の基礎的な概念（記述統計量など）を習得することができるようになる。

### 提出課題

講義時間中に実習課題を提出する必要がある。また、講義期間中に中間確認演習・最終確認演習を実施する。

### 課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

「確認課題と解説」回において講評・解説を行う。

### 評価の基準

講義中課題 : 35%  
 中間確認演習 : 30%  
 最終確認演習 : 35%  
 欠席（課題未提出）・遅刻は減点対象である。

### 履修にあたっての注意・助言他

経済情報処理 未履修者は、本講義の履修について再考することを推奨する。当科目は経済情報処理 が修得済みであることを前提として講義が行われる。十分なフォローはできない旨、十分に認識しておいてもらいたい。

経済情報処理 履修者のなかで経済情報処理 の内容理解が十分でない履修予定者は、本講義の履修について再考することを推奨する。当科目は経済情報処理 の講義内容を十分に理解していることを前提として講義が行われる。十分なフォローができない旨、十分に認識しておいてもらいたい。

当科目の受講に当たって、経済情報処理 を必ず事前に履修しておくように注意されたい。  
 当科目はPC実習科目であり、教育・設備の制約上、事前登録が必要な科目である。履修に当たっては十分に注意されたい。  
 講義開始前・出席確認および教材ファイル配布をPCシステムで行うので、講義開始時間前に入室し、開始時点で各自のPCが使用可能な状況にしておく必要がある。また、USBメモリなどの保存用メディアを持参されたい。  
 出席確認科目である。また、講義時間外に各自よく復習してほしい。  
 講義中での私語は厳禁である。

### 教科書

・特に指定しない。

### 参考図書

・下記の「その他」項目での記載内容を参照せよ。

### その他

担当者作成の教材ファイル配布する。  
 参考文献（第5回）：森澤龍也（2015）『レクチャー&エクササイズ金融論』（新世社）  
 この他の参考文献については講義中に適時、紹介する。

### 授業計画

1. 経済情報処理 序論  
 予習：シラバスをよく読むとともに、ワープロソフトや表計算ソフトの基礎的な操作方法に関連する情報を収集し、要点をまとめておく。（2時間）  
 復習：当日の講義内容および経済情報処理 の要点を整理するとともに、講義の全体像を十分に把握する。（2時間）
2. 参照機能の活用  
 予習：参考文献や情報検索などによって講義範囲に関連する情報を収集し、要点をまとめておく。（2時間）  
 復習：課題をもう一度自分の力で解くことができるか確かめるとともに、参考文献の再読、講義ノートの整理に取り組み、内容に関する理解を深める。（2時間）
3. 参照機能の活用  
 予習：参考文献や情報検索などによって講義範囲に関連する情報を収集し、要点をまとめておく。（2時間）  
 復習：課題をもう一度自分の力で解くことができるか確かめるとともに、参考文献の再読、講義ノートの整理に取り組み、内容に関する理解を深める。（2時間）
4. 確認課題と解説  
 予習：参考文献や情報検索などによって講義範囲に関連する情報を収集し、要点をまとめておく。（2時間）  
 復習：課題をもう一度自分の力で解くことができるか確かめるとともに、参考文献の再読、講義ノートの整理に取り組み、内容に関する理解を深める。（2時間）
5. ゴールシークの活用  
 予習：参考文献や情報検索などによって講義範囲に関連する情報を収集し、要点をまとめておく。（2時間）  
 復習：課題をもう一度自分の力で解くことができるか確かめるとともに、参考文献の再読、講義ノートの整理に取り組み、内容に関する理解を深める。（2時間）
6. 確認課題と解説  
 予習：参考文献や情報検索などによって講義範囲に関連する情報を収集し、要点をまとめておく。（2時間）  
 復習：課題をもう一度自分の力で解くことができるか確かめるとともに、参考文献の再読、講義ノートの整理に取り組み、内容に関する理解を深める。（2時間）
7. 中間確認演習  
 予習：これまでの講義資料・講義ノート、および教科書の該当箇所をよく見直す。（2時間）  
 復習：課題をもう一度自分の力で解くことができるか確かめるとともに、講義資料・講義ノートの整理に取り組み、内容に関する理解を深める。（2時間）
8. 記述統計量の活用  
 予習：参考文献や情報検索などによって講義範囲に関連する情報を収集し、要点をまとめておく。（2時間）  
 復習：課題をもう一度自分の力で解くことができるか確かめるとともに、参考文献の再読、講義ノートの整理に取り組み、内容に関する理解を深める。（2時間）
9. 確認課題と解説  
 予習：参考文献や情報検索などによって講義範囲に関連する情報を収集し、要点をまとめておく。（2時間）  
 復習：課題をもう一度自分の力で解くことができるか確かめるとともに、参考文献の再読、講義ノートの整理に取り組み、内容に関する理解を深める。（2時間）
10. Excel関数の活用  
 予習：参考文献や情報検索などによって講義範囲に関連する情報を収集し、要点をまとめておく。（2時間）  
 復習：課題をもう一度自分の力で解くことができるか確かめるとともに、参考文献の再読、講義ノートの整理に取り組み、内容に関する理解を深める。（2時間）
11. 確認課題と解説  
 予習：参考文献や情報検索などによって講義範囲に関連する情報を収集し、要点をまとめておく。（2時間）  
 復習：課題をもう一度自分の力で解くことができるか確かめるとともに、参考文献の再読、講義ノートの整理に取り組み、内容に関する理解を深める。（2時間）
12. Excel関数の活用  
 予習：参考文献や情報検索などによって講義範囲に関連する情報を収集し、要点をまとめておく。（2時間）  
 復習：課題をもう一度自分の力で解くことができるか確かめるとともに、参考文献の再読、講義ノートの整理に取り組み、内容に関する理解を深める。（2時間）
13. 確認課題と解説  
 予習：参考文献や情報検索などによって講義範囲に関連する情報を収集し、要点をまとめておく。（2時間）  
 復習：課題をもう一度自分の力で解くことができるか確かめるとともに、参考文献の再読、講義ノートの整理に取り組み、内容に関する理解を深める。（2時間）
14. 中間確認演習  
 予習：これまでの講義資料・講義ノート、および教科書の該当箇所をよく見直す。（2時間）  
 復習：課題をもう一度自分の力で解くことができるか確かめるとともに、講義資料・講義ノートの整理に取り組み、内容に関する理解を深める。（2時間）
15. 最終確認演習

### 授業形態（アクティブ・ラーニング）

ア：PBL（課題解決型学習）		イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート		エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	○	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A・L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）		

### 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

経済情報学データサイエンスコース：  
 DP(1) - との関連性：目標(1)・(2)を達成することで共通DPに貢献できる。  
 DP(2) - との関連性：目標(1)・(2)を達成することで共通DPの「データサイエンス力」に貢献できる。  
 経済情報学情報システムコース：  
 DP(1) - との関連性：目標(1)・(2)を達成することで共通DPに貢献できる。  
 DP(3) - との関連性：情報システムの仕組みを直接の考察の対象とはしていないが「情報処理能力、問題解決のための応用力を身につける」ことに貢献できる。

### 双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

適宜、質問・疑問点を募りながら、PC実習を行う。クリッカーを使用する予定である。

### 実務経験の有無及び活用

実務経験なし

### 備考

当科目は経済情報処理 が修得済みであることを前提として講義が行われる。